全労連
ZENROREN

2021年5月15日
月1回15日発行
第538号（通巻547号）
1989年11月14日第三種郵便物認可
http://www.zenroren.gr.jp

非正規・ジェンダー差別NG！
コロナ禍だからこそ公正な社会を！非正規全国集会

第29回 パート・派遣など非正規ではたらくなかまの全国交流集会 in 愛知（オンライン）

6月5～6日（申し込みは全労連非正規センターホームページへ）

第92回メーデー

希望ある未来を切り拓こう
ジェンダー平等 公正な社会の実現めざす

コロナ感染の再拡大の５月１日、第92回メーデーが全国で展開された。中央メーデーは東京都への「緊急事態宣言」再発令のなか、代々木公園野外ステージでの集会（実行委員会スタッフのみ参加）を開催。同時にオンラインでの配信を行った。また多くの地方で「オンライン配信」に変更を余儀なくされた。16以上の地方で屋外集会やスタンディング宣伝、コロナ相談会等が行われ、来年以降の通常開催にむけた足掛かりとなった。

代々木公園から配信された中央メーデー

東京医労連は現場の実態と最賃引き上げを訴えた

「いのち守れ」の国民的共同を

集会では冒頭、主催者を代表して小畑雅子代表委員（全労連議長）があいさつ。今後のたたかいについて3点を提起した。

第1に、医療・公衆衛生の逼迫（ひっぱく）、地域崩壊といえる状況が続くなか、高齢者医療費2倍化法案や病床削減推進法案を強行していることにふれ、いのちを軽んじる政権を批判。「いのち守れ」をスローガンに幅広い労働者、市民との共同のたたかいをよびかけた。

あいさつする小畑代表委員

第2に、この間、雇用を守り、休業者への正当な補償を求めた取り組みで一定の成果があったと指摘。さらなる感染拡大による厳しい雇用悪化にふれ、雇用確保や十分な休業補償を求めた運動の強化を訴えた。

第3に、惨事便乗型の政府・財界による「成長戦略」に抗して、「コロナ禍だからこそ、賃上げ・底上げ」を求める取り組み、ジェンダー平等、個人の尊厳が尊重される公正な社会の実現を訴えた。そのうえで、長野・広島・北海道の3つの国政選挙での野党統一候補の勝利を都議選、総選挙につなげ市民と野党共闘の深化・発展で国民のいのちと暮らしを守る政治の実現をよびかけた。

最後にミャンマーの軍事クーデターを批判、基本的人権や民主主義を守るためミャンマーの労働者・国民との連帯を表明した。

「ピンチを最高のチャンスに」本田 宏氏

NPO法人医療制度研究会副理事長の本田宏氏が連帯あいさつ。この間、医師不足と低医療政策による日本の医療危機を訴えてきたが、今回の新型コロナ感染拡大で問題点が露呈したと指摘。「このピンチを最高のチャンス」とし、いのちが守られる社会を変えていこうと発言した。

ビデオメッセージをよせた米UE労組のカール・ローゼン議長（左）、韓国・民主労総のヤン・ギョンス委員長

「安心・希望の持てる日本を」志位和夫氏

さらに日本共産党・志位和夫委員長があいさつ。「深刻なコロナ感染拡大は菅政権による人災だ」と指摘。五輪を中止し、コロナ収束に集中することを強調。さらに「社会的連帯の力でコロナの先に安心して希望を持って暮らせる新しい日本をつくろう」と訴えた。また、日比谷メーデー実行委員会からのメッセージについては砂山太一代表委員が代読し紹介した。

集会では今回はじめて、福島と広島のメーデー会場とつなぎ中継。「原発事故汚染水の海洋放出をあらゆる手段で阻止」（福島県労連・斎藤富春議長）、「参院再選挙で菅政権に厳しい審判を下した。政府に核兵器禁止条約の批准を求める」（広島県労連・神部泰議長）と決意を表明した。

集会会場から東京医労連女性部、首都圏青年ユニオンの代表が決意表明した。

最後に、「メーデー宣言案」を採択し、荻原淳代表委員が閉会あいさつ・団結がんばろうを行い、閉会した。

集会に先立って、米国UEのカール・ローゼン議長、韓国・民主労総のヤン・ギョンス委員長からのメッセージが紹介された。

若者メーデー要求アピール大作戦に参加した長野の青年

熊本ではメーデー集会後、食料配布、生活・健康相談に取り組んだ

名古屋市内で開催された愛知県中央メーデー

中央集会とオンラインでエール交換した広島県中央メーデー

発行所・編集発行人 全国労働組合総連合 〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4階 ☎03-5842-5611 FAX.03-5842-5620
ZENROREN
（定価）1カ月 100円（月1回、送料含む）年間 1,200円（申込みは1年前納）
※組合員の購読料は組合費に含む【送金先】郵便振替00170－4－415770